

ラフティングを生かした人生を



「修学旅行の経験を学校生活に生かそう」

解散式のあいさつで、実行委員長が話した言葉が、今も耳に残る。修学旅行の経験をどう生かす？

グラウンドにこんにゃくいもを植えてみるか。武庫川をラフティングで下ってみるか。そういうことじゃない。

「時間の使い方」という視点から、ある場面を紹介したい。それは、ラフティングだ。

みんなが、あらかじめトイレをすませ、てきぱきと着替えたために、スムーズに行程をこなし、1時間も早く徳島を出発できた。時間をうまく使った成果だ。これは、たまたまではない。ポイントは「うまく準備できた」という点だ。

前日に行われた先生の深夜会議。どうすればスムーズにラフティングができるか、眠い目をこすりながら、話し合った。その中で、1. ホテルでトイレに行っておく

2. 水着をあらかじめ着ておいてもよい

の2点を、徹底しようという提案があった。

当日の朝。その2点を、担当の先生が全体に伝えた。しっかり聴いていたあなたたちは、実行に移したのである。インストラクターさんも「着替えがはやくて助かりました」と、あなたたちの「準備」のすばらしさを高く評価してくれた。この経験をどう生かすか。

要するに、どんな場面でも、しっかり準備しておけばあとが楽、ということだ。では「しっかり」とは、どういうことか。

自分で考えるのはもちろん、人の話を「聴く」ということだ。

これは、あなたたちの弱点だ。解散式のと看、校長先生から「聴く力が弱い」と指摘していただいた。へこむ必要はない。ラフティングの場面を思い起こしてほしい。あなたたちは、やりとげた。やればできることを証明した。

授業がまた始まる。あなたは知っている。人の話を聴いて準備することが、自分のプラスになることを。5月26日はミニ中間テスト、6月1日は尼崎市内一斉テストだ。

体育大会の練習が始まる。どう準備したらいいかは、すでに玄関のところに掲示されている。あなたは知っている。しっかり準備して、うまく時間を使えば、よりすばらしい体育大会になることを。

部活だって、進路だって、準備の大切さは同じ。ラフティングでの経験を、人生に生かしてみようじゃないか。